



国立病院機構下志津病院
病院ニュース

しもしづ
下志津

創刊号

平成21年1月
発行



発刊に当たって

院長 吉田孝宣



このたび、国立病院機構下志津病院を利用される皆様との情報交換の場として、病院ニュース「下志津」を発刊することとなりました。小児科における小児喘息、食物アレルギーとか、内科、整形外科におけるリウマチ疾患等、当院が得意とする専門的医療の事や、老人疾患、生活

習慣病などに関する地域医療から筋ジストロフィー、重症心身障害などの政策医療まで、当院の診療機能の内容を幅広く皆様に情報提供致します。

さらに当院のことばかりではなく、ご利用者の皆様のご意見や、ご感想、季節の話題、趣味のことなど、形にとらわれない、皆様に楽しんで頂ける紙面にしたいと考えております。

長い歴史と伝統を持つこの病院に今まで情報誌がなかったというのは、思えば不思議な事です。この情報誌を通じて、皆様からのご批判や応援など様々なパワーをいただき、当院の発展に資することができればと思っております。

病院の**基本理念**

- 1 私達は、患者さまの生命の尊厳と人格の尊重を基本として、患者さまの生活の質と生きがいを目指した医療サービスと療養環境を提供します。
- 2 私達は、患者さまの健康回復のために、常に医学的ならびに医療的水準の向上に努め、専門的かつ倫理的な医療サービスを提供します。
- 3 私達は、障害のある患者さまの社会との関わりと、ご家族の方々の社会的活動を重視し、積極的に支援します。
- 4 私達は、地域の人々の健康を守るために、地方公共団体、地域医師会と連携し、必要な情報の提供と予防医学ならびに医療活動を推進します。

小児科の紹介

統括診療部長 山本 重則

●政策医療と小児慢性疾患について

下志津病院では、国から委託されている「政策医療」として「成育医療」を担っています。下志津病院には産科・新生児科はありませんが、乳児期から成人期に至るまで子どもたちが健やかに育っているよう努力しています。

小児科で診療している主な疾患では、一般的な急性疾患に加えて、慢性疾患である気管支喘息や食物アレルギーなどのアレルギー疾患が多いです。他に、慢性腎疾患、糖尿病・高度肥満などの生活習慣病、心身症・不登校、発達障害などの神経疾患の診療をおこなっています。これらの慢性疾患の治療管理は、専門医、薬剤師、看護師、児童指導員、保育士、心理療法士、理学療法士、作業療法士、栄養士など様々な職種のプロフェッショナルが連携・協力しながら総合的に展開しています。さらに隣接している千葉県立四街道特別支援学校とも密接に連携・協力して、小児慢性疾患の長期施設療法をおこなっています。最近では、小児慢性疾患の長期施設療法を実施している施設が限られているため、千葉県内だけに留まらず、東京、埼玉、神奈川からの入院もあります。病気を抱えていて、通常の学校に通学できないお子さんがいらっしゃいましたら、ぜひ御相談ください。



●小児科の医師スタッフと外来について

下志津病院小児科の医師スタッフは、現在、常勤医師8名と非常勤医師4名です。下志津病院小児科は小児科学会の専門医研修施設に認定されており、現在、小児科学会専門医が常勤・非常勤をあわせ合計9名います。

外来診療は、午前中の診療がメインです。毎日4名態勢で診療しています。午後はアレルギー疾患などの予約診療となりますが、急病の患者さまにも対応可能です。事前に電話で確認してから御来院ください。小児科外来とは別に、月曜と水曜に小児神経外来を実施しています。小児科外来・小児神経外来とも、医療機関からの紹介の場合、初めて受診する方でも事前に予約が入られますので、御利用下さい。当院では、保険診療以外に、四街道市から委託された乳児検診と予防接種もおこなっています。予防接種は定期接種だけでなく任意接種も実施しています。なお、乳児検診と予防接種は予約制になっています。

●小児救急態勢について

四街道市を含む印旛地区では小児救急態勢が確立しています。印旛市郡小児初期急病診療所が佐倉市健康管理センターに設置され、この地域の時間外の小児の内科系の疾患は、最初にここで診療することになっています。検査や入院治療が必要と思われる場合は2次救急当番病院に紹介されます。下志津病院小児科では木曜と土曜に2次救急当番病院を担当しています。なお、木曜・土曜以外でも、平日夜9時までは、臨床検査技師・診療放射線技師・薬剤師も勤務していて、救急にも対応可能ですので、事前に電話で確認してから御来院ください。

新型インフルエンザについてのお知らせ

臨床研究部長 杉山 隆夫

●新型インフルエンザとは

鳥インフルエンザウイルスが変異してトリからヒトだけでなく、ヒトからヒトへうつるようになったインフルエンザウイルスで起るインフルエンザのことを新型インフルエンザとといいます。ヒトは新型インフルエンザに対する免疫をまだもっていないので、世界的大流行（これをパンデミックといいます）が起る可能性があります。

過去にもスペインかぜ、アジアかぜ、香港かぜといったウイルスが新型インフルエンザとして大流行がしましたが、次第にヒトが免疫を獲得して抵抗力をつけたので今では通常のインフルエンザのひとつになっています。しかし、多くのヒトに免疫ができるまでにはスペインかぜでは世界で50%のヒトが感染し、2～5億人が発症、2千～5千万人が死亡したといわれています。

今、話題になっている鳥インフルエンザウイルス（H5N1）では肺炎での死亡率が高いため、これが新型インフルエンザウイルスとなると重症となる患者さんが多いのではないかと心配されています。最近の推定では千葉県で25%が感染、150万人が発症、入院が2万5千～9万5千人、死亡者が8千～3万人となっています。

●新型インフルエンザが出現したときの対応

新型インフルエンザが出現した場合、ヒトが免疫を持つまでの期間の対応が重要になります。鳥インフルエンザにも48時間以内の抗インフルエンザウイルス薬投与が有効とされているので、治療にはタミフル、リレンザなどの薬を使います。

予防にはワクチンが必要ですが、新型インフルエンザ用のワクチンは新型インフルエンザウイルスを使って作成されます。しかし、急いでも6ヶ月～1年の時間が必要です。このため、ワクチン以外の予防が必要になります。

インフルエンザは咳やくしゃみで飛び散った飛沫によって感染します。これは1～2mしか飛ばないので、感染者に近づかないのが1番の予防です。このために、次のような方策が必要となります。流行期にはなるべく自宅から出ないようにしてください。このための、2週間程度の食料・水をはじめとした生活必需品の備蓄が勧められています。病気で定期

的に薬を服用している方は薬を多めに持っている必要もあります。

1) 患者の早期発見、治療と封じ込め

インフルエンザの疑いがあるときは、後に述べる発熱外来を受診し、医師の指示に従ってください。

2) 患者の濃厚接触者に対する予防薬投与と外出の自粛

県内（あるいは近隣の都県でも）に患者が出たことが確認されると学校は休校になります。もちろん、休校後は子供達を外出はさせないことが必要です。大人も仕事を休む必要がでてくるかもしれません。人混みや電車・バスなどの使用も避けるべきです。

3) マスクの着用、うがい、手洗いの励行。

咳エチケットが必要です。症状がはっきりなくても感染していることがあるので、全員が外出時（家族に感染者がいれば家でも）にマスクをつけた方がよいでしょう。

●新型インフルエンザが出現したときの医療機関のかかり方

新型インフルエンザの発生があると県、医師会を中心に発熱相談センターと発熱外来が設置されます。発熱外来は休校中の小中学校に作られる予定です。発熱者は普通の病院や診療所ではなく、発熱外来を受診することになります。

インフルエンザかなと思ったら

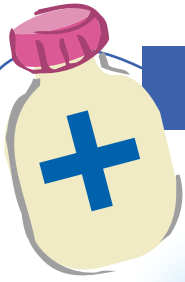
- 発熱相談センターへ相談
- ここでインフルエンザが疑われたら
- 発熱外来を受診
- ここでインフルエンザが疑われたら
- 発生初期は入院を勧められます

流行期は投薬・自宅で療養

- 重症なインフルエンザが疑われたら
- 病院紹介→入院が必要です

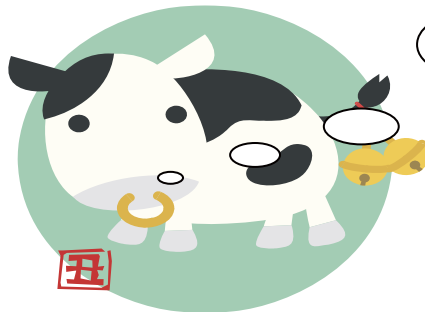
● 流行期の病院は、入院の必要な新型インフルエンザの患者さんでいっぱいになる可能性があります。従って、他の病気や手術予定で入院している患者さんは可能な限り自宅療養に切り替えていただくことになるかもしれません。

● 定期的に通院している患者さんも病院では新型インフルエンザをうつされる可能性もあるので、流行期には大きな変化がなければ薬の処方だけとしていただく方がよいかもしれません。



花粉症の治療薬

2月上旬から4月にかけて鼻がムズムズ・グスグス、くしゃみが止まらない。花粉症というとすぐにスギ花粉を連想しますが、ヒノキ（3～5月）、イネ（5～9月）、ブタクサ・ヨモギ（8～10月）とほぼ1年中何らかの花粉が飛んでいます。



モ～ イヤ～

お薬は

お薬は、内服薬、点鼻薬、点眼薬など色々あり、症状の程度に合わせて処方されます。

くしゃみや鼻水には、ペリアクチン、ポララミンなどの抗ヒスタミン薬を使います。

鼻づまりがあればアレギサル、リザベンやクラリチン、アゼプチン、アレジオン、アレグラ、アレロック、ザジテン、ジルテック、セルテクトといったお薬が使われます。少し強い鼻づまりには、フルナーゼ、アルデシンといった点鼻薬が効果的です。トークという点鼻薬も使いますが、連用を避け短期間の使用とします。

重症になるとセレスタミンやこれらのお薬を組み合わせて使用します。重症の鼻づまりには、手術をすることもあります。キプレス、シングレア、オノン、パインラス、アイピーディといったお薬も鼻づまりに有効です。

注意点

治療は、花粉飛散1～2週間前から開始し、季節の終了まで続

します。シーズン中は、症状が良くなっても使用を止めないことがポイントです。

ところで、点眼薬の多くは、保存剤を含んでいます。たとえば、塩化ベンザルコニウムというものが含まれているインタール点眼液は、コンタクトレンズの劣化やレンズに吸着して着色するので注意しなければなりません。出来れば点眼後、15分してから装着するようにしてください。

外出時はマスクやメガネを着用し、帰宅時には衣類や髪をよく払って入室し、洗顔、うがい、鼻をかむなどのような点を心がけてください。

予防対策



Hibワクチンを受けましょう

小児科 鈴木 修一

乳幼児は細菌への抵抗力がまだ十分ではないため、時に細菌が脳や脊髄をとりまく体液にまで侵入し強い炎症を起こすことがあります。この細菌性髄膜炎という感染症は、子どもがかかる病気の中でもっとも重いものの1つであり、命を失ったり重篤な後遺症をのこしたりすることが少なくありません。細菌性髄膜炎を起こす細菌はさまざまですが、最も多い原因菌はインフルエンザ菌b型（*Hemophilus influenzae type b*: Hib）です。千葉県調査では細菌性髄膜炎の原因菌の90%がHibということがわかっています。Hibは急性喉頭蓋炎という、のどが腫れて呼吸ができなくなる感染症の主な原因菌でもあります。

この恐ろしいHibに対しては20年以上前よりアメリカをはじめ94か国以上でワクチン接種が開始され、細菌性髄膜炎や急性喉頭蓋炎にかかる子どもが激減しています。たとえば、フィンランドではHibワクチンの一斉接種により、2年たらずでHib感染症にかかる子どもが約1/20に減少しました。2008年12月より、このワクチンがようやく日本でも接

種することができるようになりました。ワクチンの名前は「アクトヒブ」と言います。接種時期は生後2か月より4～8週間の間隔で（医師の判断により3週間の間隔でも可能です）3回接種し、1年後に追加接種します。三種（ジフテリア・百日咳・破傷風）混合ワクチンとほぼ同じスケジュールですので、接種部位をかえて同日に接種することが可能です。1歳～5歳未満のお子さんではじめて接種をご希望される場合は、1回のみ接種となります。主な副反応は注射部位の発赤やはれなどで、ほとんどの場合は軽くすみます。

このワクチンは、まだ任意接種であるため有料です。当院でのワクチン接種費用は1回分が7,280円です。通常の4回接種ですと合計29,120円かかりますので、自治体からの助成や定期接種化が待ち望まれています。Hibは症状のない乳幼児ののどにも常在できることが知られています。多くの方がHibワクチンを受けることで地域からHibがいなくなることが期待できます。お子さんとお友達を守るために、Hibワクチンの接種をお勧めします。

新しい小児病棟に引っ越しして1年を迎えて



3病棟師長 下田 すみ子

病院玄関から一番奥に進んだところに、新病棟が完成したのは昨年10月のことです。小児科病棟は新病棟の1階に引っ越しました。毎日新しい生活に胸を膨らませながら、新しい病棟のことを考えていたことを懐かしく思います。新しい病棟は天井が高く廊下も広くのびのび過ごせる環境です。お子様たちは、プレイルームの大きな窓から注ぐ陽の光を浴びながら遊んでいます。お子様もご家族の方も、リラックスして治療に専念することができるように、個室を多く作り好評をいただいています。職員も建物に負けず、質の高い医療を提供できるように努めて参ります。

下志津病院「秋まつり」開催

外来師長 國分 保弘

10月4日（土）イトーヨーカドー四街道店で、下志津病院「秋まつり」を開催しました。毎年5月に「看護の日」として実施してきたこのイベントも、おかげさまで毎回好評を得て徐々に規模を拡大し、いよいよ病院全部門の参加による秋の大イベントとなりました。

日頃の感謝と地域の方々の健康に役立てるよう、「あなたの健康は大丈夫？」というサブテーマで、骨密度測定、体脂肪・腹囲測定、栄養相談、健康相談、体力測定と、今回は新たに肺機能測定、クイズコーナーを加え、7つのコーナーをご用意しました。

企画の段階から各職員が協力し、当日は21名のスタッフが参加。下志津病院にかかりつけの方、最近メタボが気になる方、日頃は病院にかからない方など総勢270名の来場がありました。皆様から感謝の言葉と病院への貴重なご意見をいただき今後に役立てていきたいと思ひます。

これからも春と秋の年2回でイベントを続けていきますので、今後の下志津病院ニュース、病院ホームページ、イトーヨーカドーの新聞折込広告でお知らせいたします。もちろん無料ですよ。どうぞお楽しみに！



院内患者勉強会 の お知らせ

下志津病院では、病院内で患者さまとその家族などを対象にして、勉強会がおこなわれています。どの勉強会も、どなたでもご自由に参加をお願いします。

- | | | |
|--------------|---------------|-------|
| ① 糖尿病教室 | 毎週月曜日 10時半より | 吉田院長 |
| ② 関節リウマチについて | 金曜日午後1時半より不定期 | 末石副院長 |
| ③ 膠原病について | 金曜日午後1時半より不定期 | 末石副院長 |
| ④ ステロイド剤について | 金曜日午後1時半より不定期 | 末石副院長 |

①は時に中止があります。②、③、④は月に一回ていどです。

いずれも念のため、電話（043-422-2511）で内科外来にお訪ねください。

当院では平成18年より一般市民の方へいろいろな疾患の講義をしています。

昨年までは病院内で行っていましたが、今年度からは四街道市と共同で市の健康センターの会議室で開催しています。

昨年度は、骨粗しょう症・睡眠時無呼吸症候群・糖尿病・経鼻内視鏡による上部消化管検査・小児の急病・パーキンソン病についての講義を行いました。

今年度は今まで

5月17日	睡眠時無呼吸症候群について	呼吸器科	吉田 泰司
8月28日	最近の乳がん検診とマンモグラフィ	外科	一木 昇
9月11日	骨粗しょう症の診断と予防	整形外科	宮本 和壽
12月3日	睡眠時無呼吸症候群について	呼吸器科	吉田 泰司
と4回講座を開催いたしました。毎回40～80人の聴講者がいました。今後			
2月12日	禁煙について	小児科	鈴木 修一
3月7日	小児の急病と予防接種について	小児科	鈴木 由美・鈴木 修一
3月19日	骨粗しょう症の診断と予防	整形外科	宮本 和壽

を行う予定です。是非聞きにおいで下さい。申込み等については1～2か月前に院内に掲示し、また市政だより四街道にも載せております。

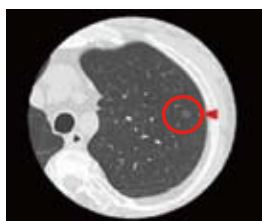
来年度もまた今年度行った講義の他、いろいろな疾患について皆様と一緒に勉強していきたいと思っております。聞きたい疾患のご要望があればぜひ教えて下さい。皆様のご意見をお待ちしています。院内のご意見箱にいられていただければ幸いです。



市民公開
講座

第一病棟部長 渡辺 博子

放射線からの お知らせ



ヘリカルCTにて「肺がんCT検診」を実施しています

【がん検診の目的】

がんを早期発見し適切な治療を行なうことで、がんによる死亡を減少させることです。無症状のうちに「がん」を早期に発見し治療することが大切です。

【通常の健康診断などで実施している胸部単純撮影と比較すると】

写真左はヘリカルCTで発見された肺がんを示しています。CT検診では矢印に示されるような淡く小さな病変を見つけることができます。CT像は重なりがなく、小さな病変部が見やすくなります。肺がんだけでなく、結核、慢性呼吸器疾患、炎症、石灰化等の病変も同時に検出できます。

【お電話一本で予約できます】

電話の受付時間平日午前8時から午後8時まで

電話番号 043-422-2511（内線：270）

直接、放射線科にいられた場合もお受けいたします。

※本検診は健康保険の適用ではありません。検診費用7500円です。

巨木を訪ねて



1 糸崎神社の楠木

巨木を訪ねて旅するようになり、20年以上になる。日本では巨木は神社仏閣などに神木として大切にされたり、山奥でも住民に保存されたりして巨木の多い国でないかと思っています。そのなかでも楠木は杉、銀杏とならび日本で最大の巨木となる樹木です。巨木は眼の高さでの幹周りで表現されますが、日本最大の樹木は鹿児島県にある蒲生の大楠ですが、この糸崎神社の楠木もまけずにごしりした大木です。（巨木はその木の固有の名前が付けられており、蒲生の大楠や糸崎神社の楠木もその木だけの名前です）

糸崎神社は三原市の東部の国道2号線が海岸にそって走るすぐ山側にあります。神社の境内はひろいのですが、その左半分は楠木が頭上に広がって

ます。H20年8月に訪れました。木の上方ではさわやかな明るい緑の葉が風にゆれ、根本をみると思い切りはちきれんばかりに幹が太くなっています。楠木は巨木になると根株が発達し、広く、力強く大地をつかみこむのが特徴です。この楠木はより一層驚くほど根株が発達し、異様なほどふくらんでいます。見とれながら写真を撮りました。

樹高30m、幹周13m、推定樹齢500歳
市天然記念物
広島県三原市糸崎町719
三原駅から車20分

参考：巨樹、巨木 渡辺典博著 山と溪谷社
訪ね人：末石真



投稿・寄稿を募集します!!

病院ニュース下志津への投稿・寄稿（写真のみでも結構です）を募集いたします。掲載の可否については、編集委員会で決定させていただくことをご承知ください。電子媒体を、管理課庶務係長までお持ちくださるか、電子メールでも可能です。

編集担当アドレス hensyu@simosizu2.hosp.go.jp

外来診療担当表

受付時間

8:30~11:00

平成21年1月1日~

区分	月	火	水	木	金
内科 (一般内科) アレルギー科 リウマチ科	古川 杉本/若新 (隔週)	杉山 篠崎 古川 末石	吉田(孝) 古川 末石	杉山 杉本 篠崎 末石	杉山 杉本 若新 小林
呼吸器科	吉田(泰)	(休診)	(休診)	(休診)	吉田(泰) 本田
神経内科	(休診)	本吉 三方	本吉	(休診)	本吉 三方
小児神経科	大森	(休診)	石原	(休診)	(休診)
小児科 アレルギー科	一般 喘息 腎臓・肥満	一般 喘息	一般 喘息 腎臓・肥満・代謝	一般 喘息	一般 喘息
	西牟田 渡辺 中村 小川	西牟田 渡辺 根津 鈴木(由)	山本 根津 中村 西牟田 (新患のみ)	鈴木(修) 渡辺 中村 佐藤	鈴木(修) 石原 佐藤
外科	一木	河野	一木	長谷川	白井
整形外科	宮本 山中	後藤 宮本	(休診)	山中 後藤	宮本 後藤/山中 (隔週)
リハビリ テーション科	三方(指定する日)				

※ 特殊外来(専門外来)詳細は各科外来、または地域医療連携室へお問合せ下さい。

**四街道市
乳児健診**

第2・4木曜日午後2時から行います。受付は午後1時から3時まで。
原則として電話予約にてお願い致します。

**四街道市
乳がん検診**

毎週火曜日・金曜日に行います。受付は13:00~17:15まで。
医事科窓口と電話にて予約受付しています。(時間変更がありますので、お問い合わせください。)

**四街道市
骨粗鬆症検診**

毎週月・水・木曜日に行います。受付は13:00~17:15まで。
医事科窓口と電話にて予約受付しています。(時間変更がありますので、お問い合わせください。)

**睡眠時無呼吸
専門外来**

毎週水曜日、午後2:30~5時に行います。
呼吸器一般の患者様は月・水(AM)・金にて受診をしてください。



■JR 四街道駅
 北口下車 徒歩8分
 JR 総武本線東京駅(千葉経由)から四街道駅まで約52分

■京成臼井駅
 京成電鉄京成臼井駅から千葉グリーンバス
 「四街道駅行き」に乗車(約25分)「消防署前」下車、
 徒歩1分

●東関東自動車道
 「四街道インター」から約5分(3Km)



独立行政法人
国立病院機構 **下志津病院**

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡934-5
 電話: 043-422-2511 FAX: 043-421-3007
 ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~simosizu/>
 携帯サイト <http://www.hosp.go.jp/~simosizu/m/>

第1号(創刊号)

平成21年1月発行

発行責任者 吉田 孝宣
 編集委員長 末石 眞

